

令和2年度アジア情報関係機関懇談会

探索ニーズに応えるための情報発信はどうあるべきか

令和3年2月6日(金)

# 研究フローを踏まえた「情報」発信 ： 東京大学附属図書館U-PARLの取り組み



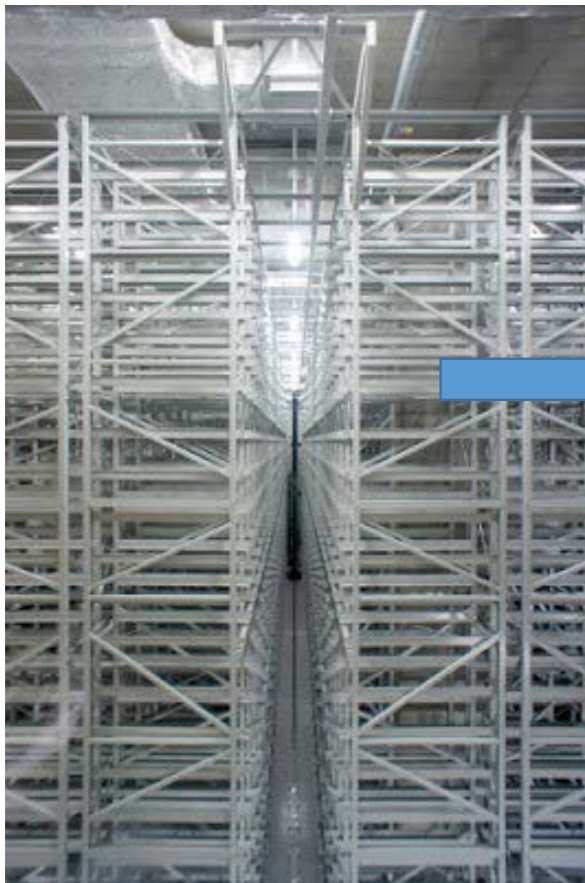
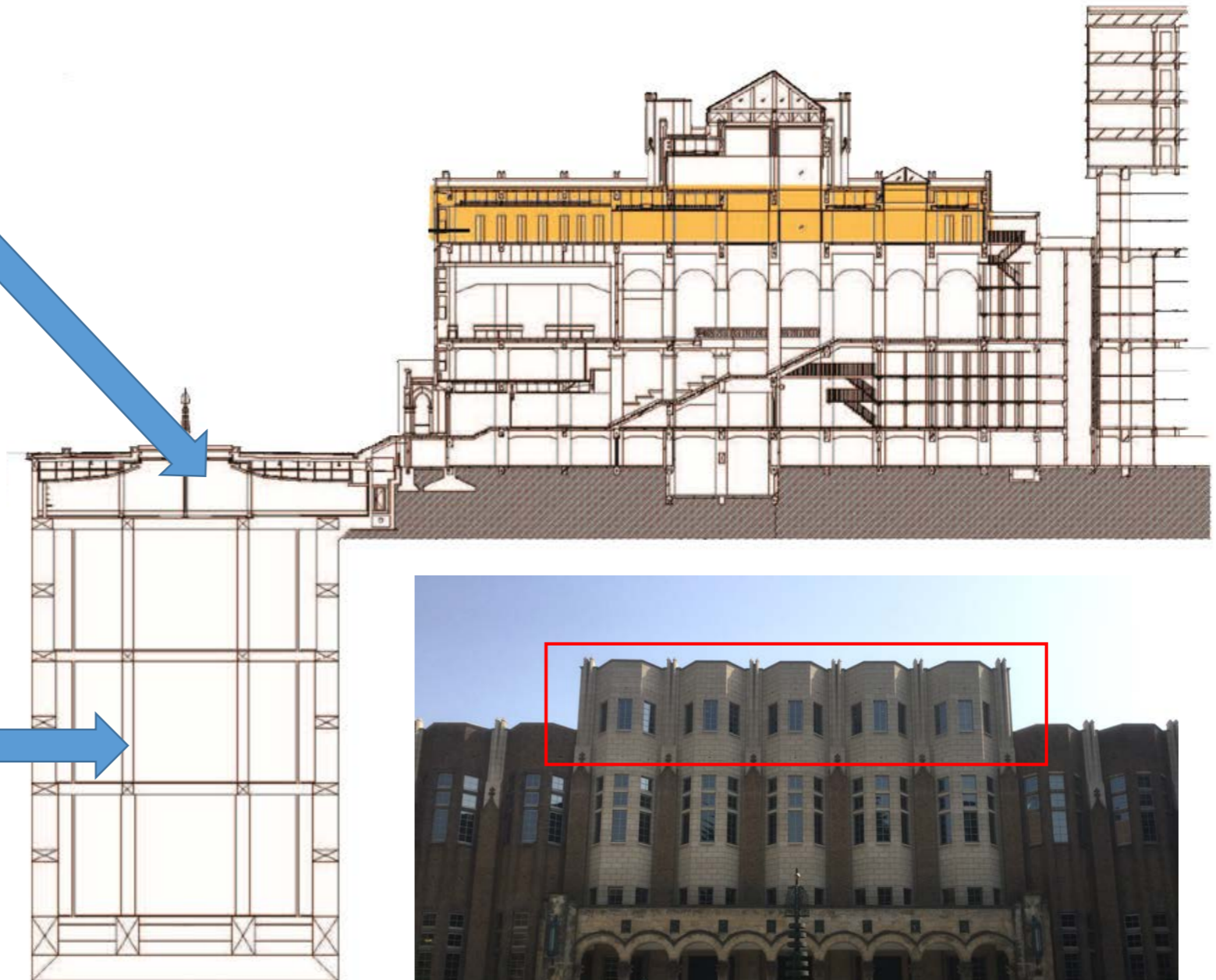
永井正勝

東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門 (U-PARL)

# ◆アジア研究図書館とU-PARL

# 東京大学アジア研究図書館の開館 2020年10月1日

総合図書館4階（開架フロアー約5万冊収蔵予定）

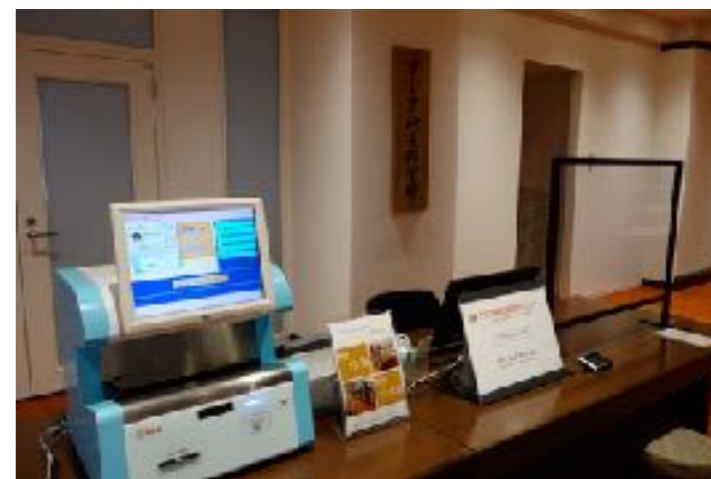


# 東京大学アジア研究図書館の開館

2020年10月1日

総合図書館4階（開架フロアー約5万冊収蔵予定）





# 東京大学アジア研究図書館の蔵書

総合図書館4階（開架フロアー約5万冊収蔵予定）

開館時 約2万冊

- 東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団  
寄付研究部門（U-PARL）購入資料
- 他部局からの移管資料
- 寄贈資料（機関，個人）
- 総合図書館からの移動資料

# 東京大学アジア研究図書館の蔵書

- [収書方針]
- ・ 辞書， 文法書
  - ・ 基本的な研究書， 概説書
  - ・ 史資料， 学史上重要な書籍

[分類] 地域 > 言語 > 主題

《一般書 Books》

4-01 XiB

地域分類、言語分類  
Area and language code

120 d

主題分類  
Classification code

viv 5

著者記号  
Author code

《辞書類 References》

R 4

R + 大地域分類  
R + Area code

san

言語コード  
Language code

mon 3

著者記号  
Author code



① 出版物  
(2020年刊行)

WHAT'S NEW



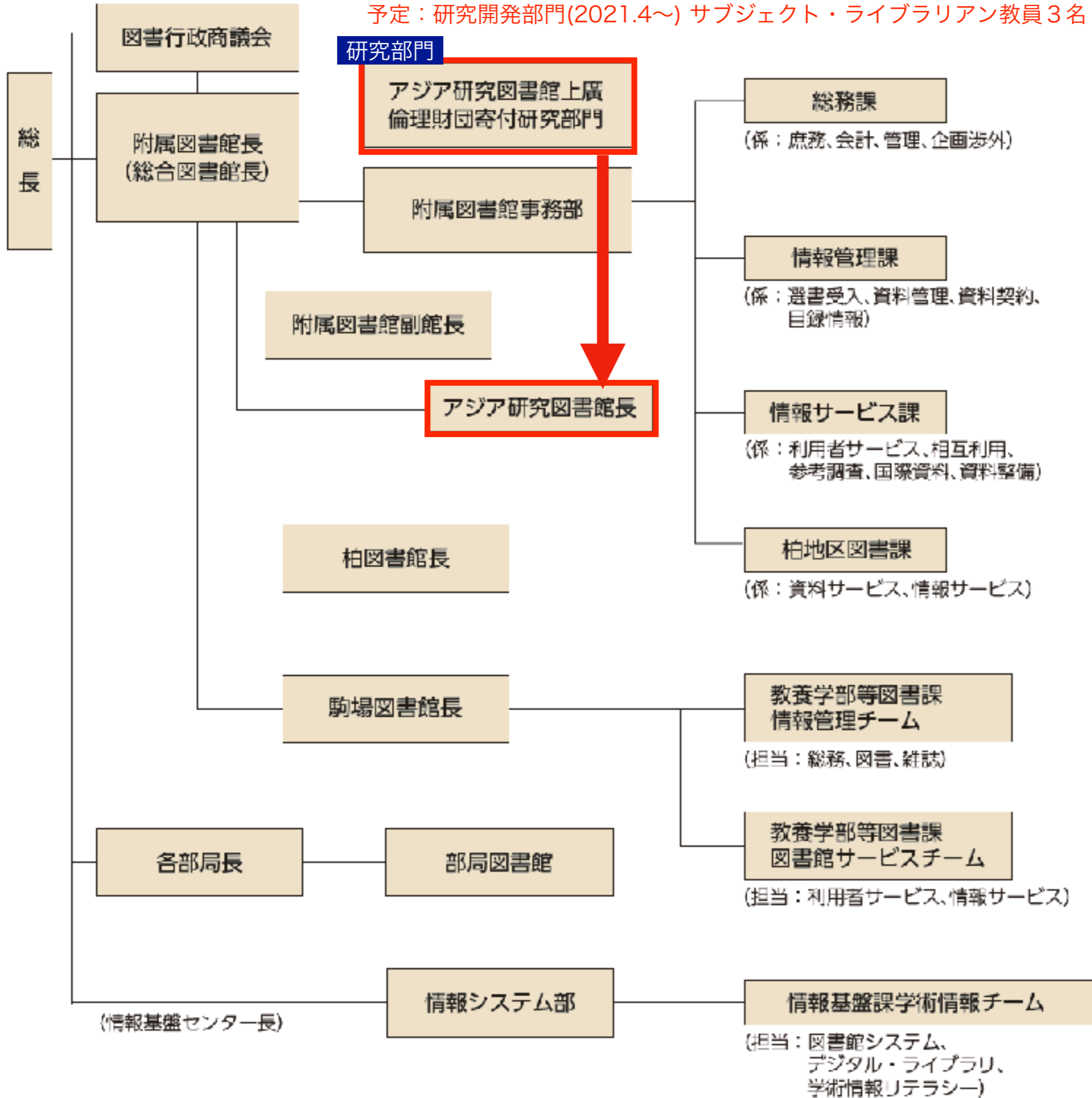
COLLECTION

アジア研究図書館資料の探し方

② 【U-PARL WEB】 アジア研究図書館資料の探し方

<http://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/archives/japanese/findmaterials>

予定：研究開発部門(2021.4～) サブジェクト・ライブラリアン教員3名

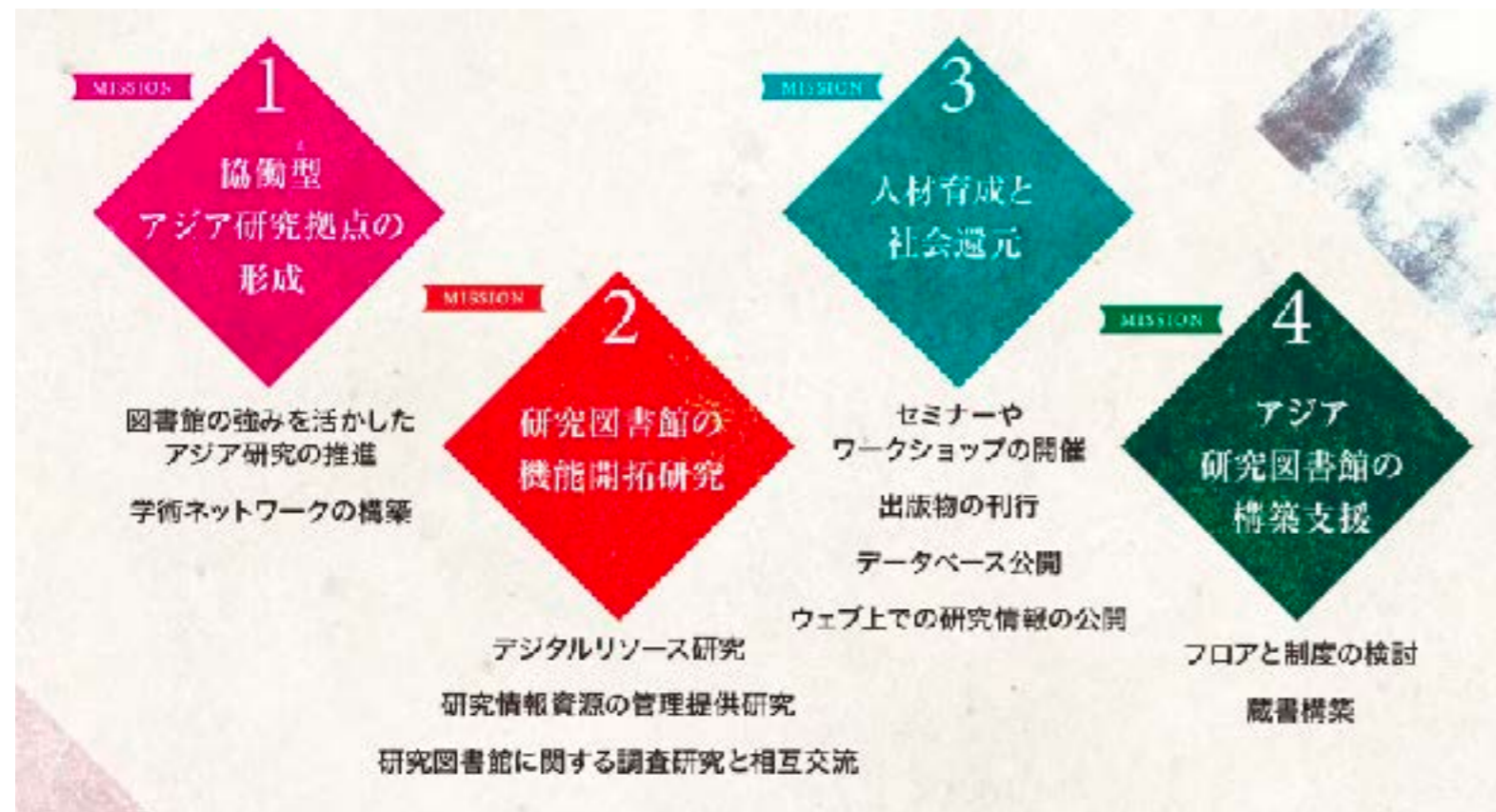




# 東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門 (U-PARL)



2014年4月1日 附属図書館設置の研究部門



第1期(2014-2018年度)  
図書館構築支援  
情報探索系のイベント

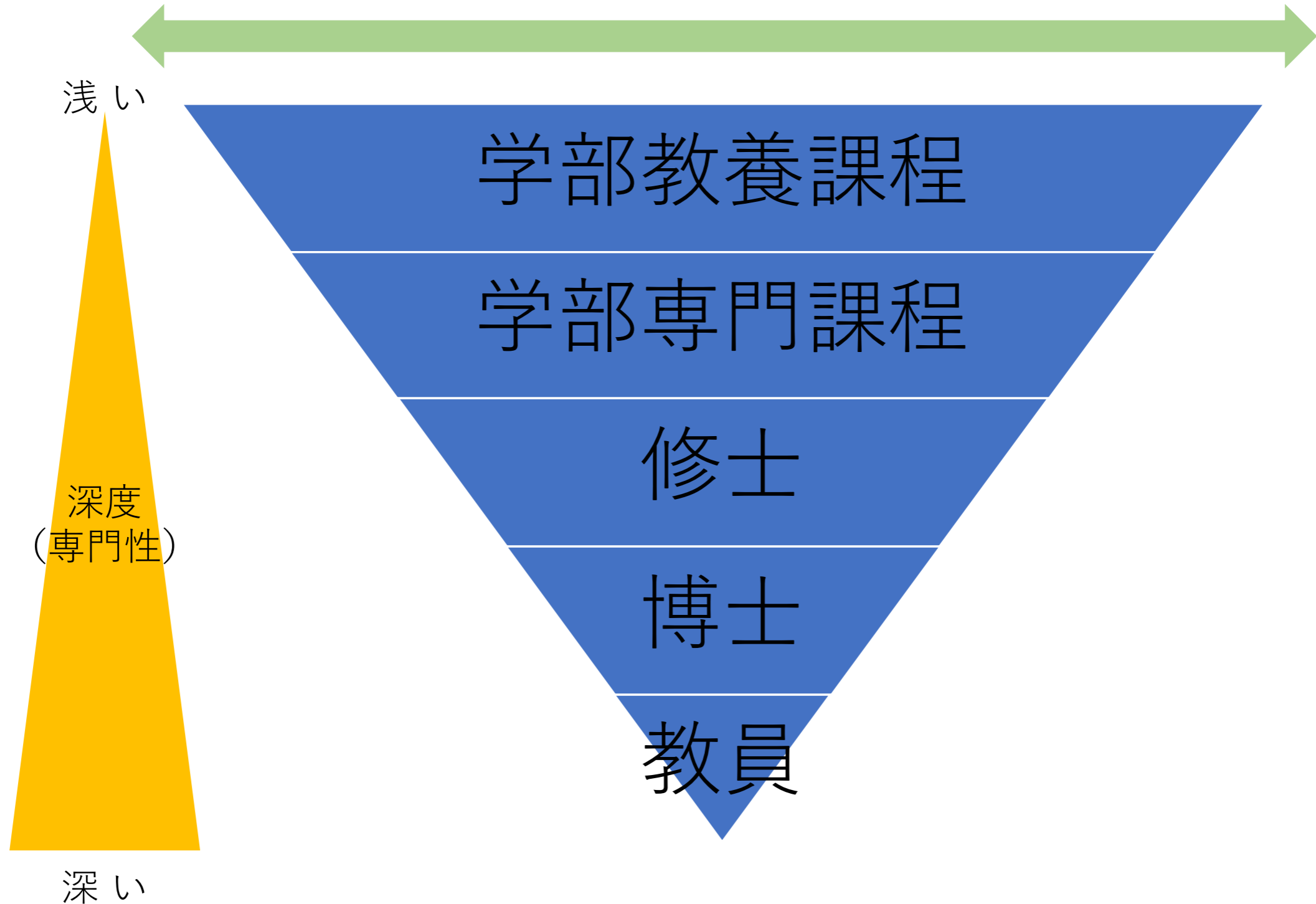
第2期(2019-2023年度)  
協働型アジア研究  
デジタルリソース研究

- 兼務教員4名（うち、部門長1名、副部門長1名）
- 特任教員2名（うち、副部門長1名）
- 特任研究員6名
- 学術支援職員9名（修士課程以上の若手研究者）
- 事務補佐員3名

# ❖ U-PARLにおける情報探索支援

# 検索する情報の幅と深度

検索すべき分野・ジャンルの幅



# 情報の集め方

一般検索

- Google等

書誌検索

- WorldCat, CiNii, OPAC

内容検索

- (資料)データベース

読書

- 書籍・論文の参考文献リスト

読書

- 書籍・論文の本文・註

対人

- 教員・研究室・研究者・学会/研究会

ソーシャル  
メディア

- SNS/ML \*情報だけではなく人が繋がる

# 研究フローに対応した情報提供

- データベースの購入
- デジタル画像の公開
- 検索システムの開発



## COLLECTION

アジア研究図書館資料の探し方

東京大学OPACからアジア研究図書館の資料を検索できます。ここでは、アジア研究図書館の蔵書（配架場所）を突発する方法、地域・主題で絞り込む方法、請求記号を中間一致で検索する方法をご案内します。

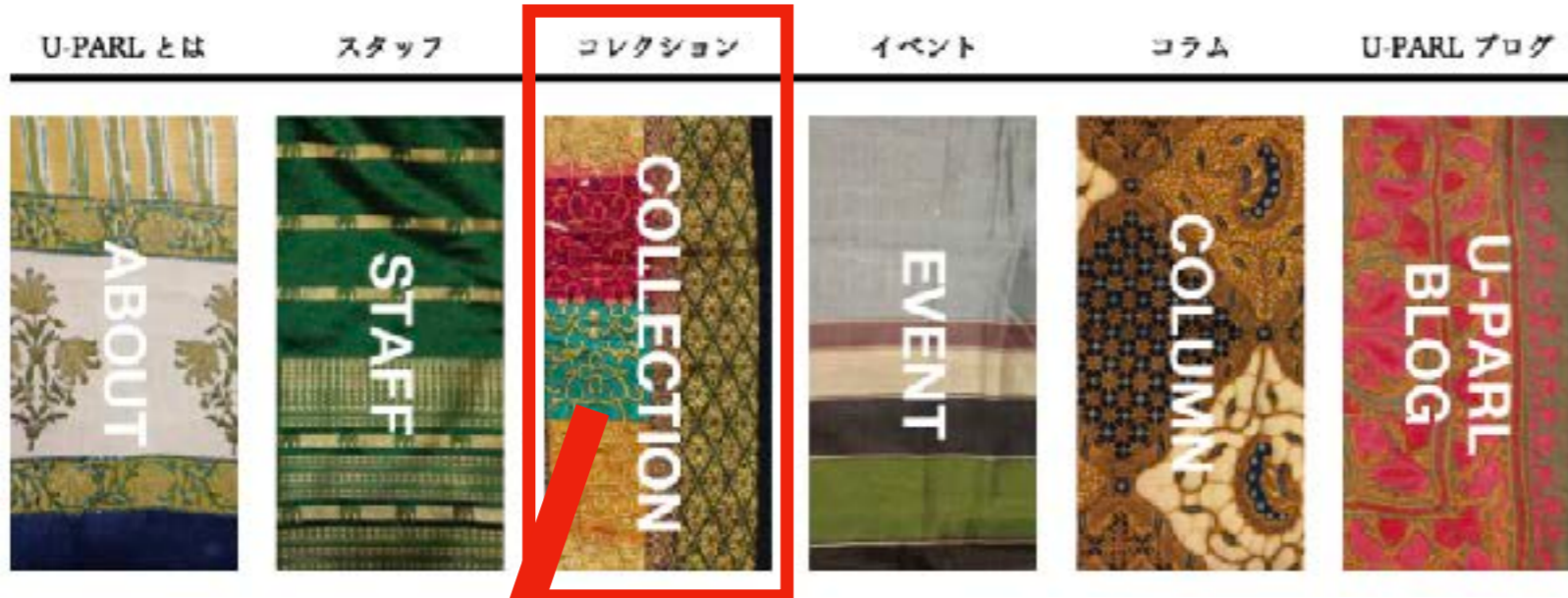


Tropy（画像管理ソフト）

Zotero（文献管理ソフト）

書誌情報収集 → 読書メモ → 参考文献リスト出力 → Wordファイルで引用註作成

# ❖ U-PARLにおける学術情報基盤の構築と発信



## データベースの購入と公開

- ▶ 概要
- ▶ 使い方ガイド



**【DIGITAL LIBRARY】 中華再造善本**

このたびU-PARLは、国家図書館出版社『中華再造善本工程』に収録される国内外の孤本・善本を鮮明な画像でデジタル化した「中華再造善本数拠庫」のデータベースを導入しました。



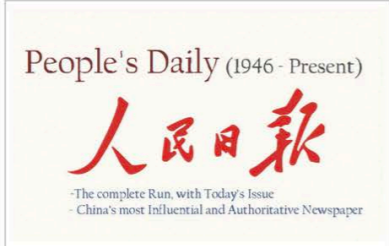
**【DIGITAL LIBRARY】 中華經典古籍庫**

<仕様変更のお知らせ>この程、『中華經典古籍庫』では、一部の機能について、携帯電話番号による個人アカウントの登録とログインを必須とする仕様の変更がありました。



**【DIGITAL LIBRARY】 申報**

このたびU-PARLは、「中国近代報刊庫」の一タイトル、『申報』のデータベースを導入しました。データベースには1872年から1949年までに発行された上海版・漢口版・香港版の『申報』合計27534号が収録されています。



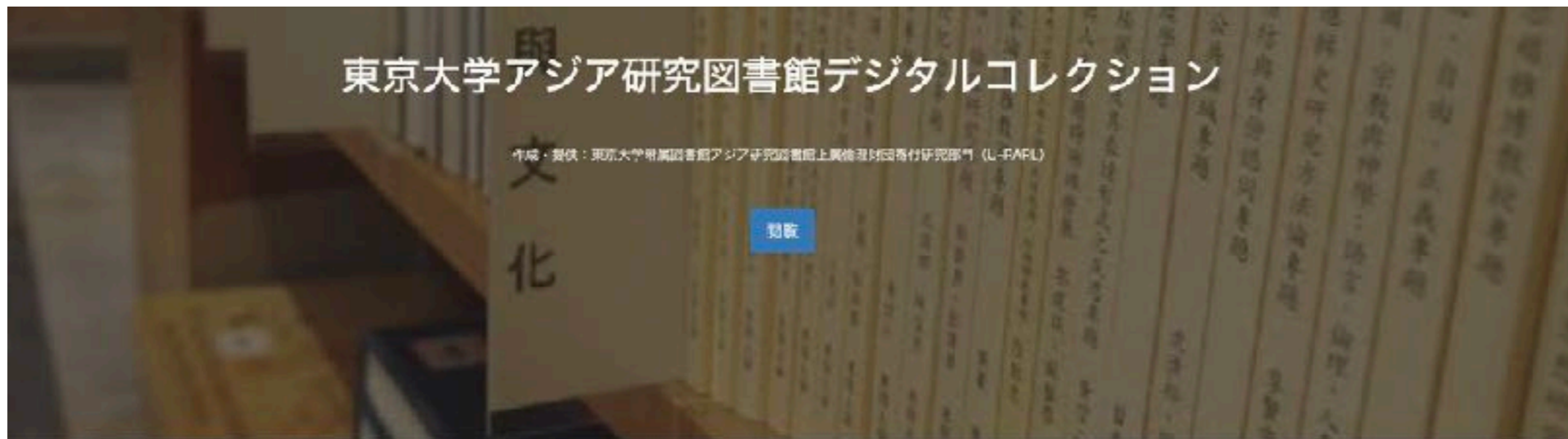
**【DIGITAL LIBRARY】 人民日報**

このたびU-PARLは現代中国を代表する日刊紙「人民日報」のデータベースを導入しました。1946年の創刊号から最新号にいたる全記事を検索・閲覧・ダウンロードできます。

# 東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション

作成・提供：東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門（U-PARL）

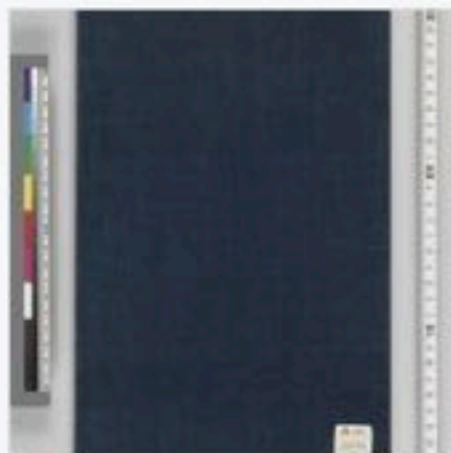
2020年1月16日 リニューアル公開



## お知らせ

- 2020年1月16日：これまで「東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門 U-PARL 漢籍・碑帖拓本資料」として公開していたサイトをリニューアルし、新規公開コンテンツも加えて、「アジア研究図書館デジタルコレクション」を公開しました。

## コレクション一覧



碑帖拓本コレクション



水滸伝コレクション



U-PARLコレクション



Digital Resources for Egyptian Studies

<https://iiif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/asia/page/home>



# 東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション



- 碑帖拓本コレクション 10タイトル
- 水滸伝コレクション 3タイトル
- U-PARLセレクトション 10タイトル
- Digital Resources for Egyptian Studies 1タイトル

計8,770点の  IIF画像

U-PARL WEB 東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション

<http://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/archives/japanese/arldc>

# ネットワークとしてのアジア研究図書館デジタルコレクション

\*U-PARLとしての見解

## アジア研究図書館 (+研究開発部門)

### U-PARL(附属図書館研究部門)

- 公開資料の選書
- 資料のデジタル化
- メタデータ (書誌情報) 付与
- アノテーション (テキスト情報) 付与

U-PARL蔵書

アジア研究図書館蔵書

総合図書館蔵書

連携

部局A

学術資産アーカイブ化推進室

- IIIF画像の生成と公開

部局B



東京大学アジア研究図書館  
デジタルコレクション



部局C

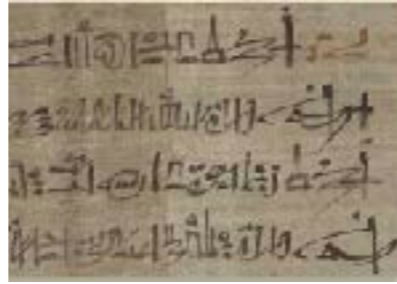


図書館

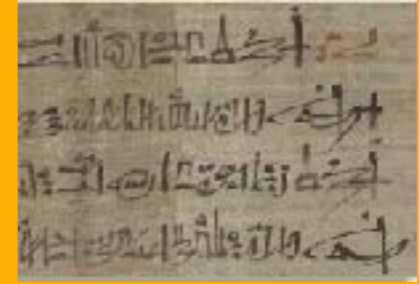


サービス  
としての資料公開

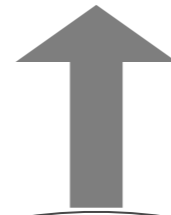
資料



資料



人文知



人文知

一般知



人文学者

ディシプリン

一般知



ユーザー

# アジア研究図書館デジタルコレクション

附属図書館研究部門

オープンデータ  
(研究資源の画像)

オープンメタデータ  
(書誌情報)

オープンアノテーション  
(テキスト情報)

オープンツール  
(検索システム等)

人文知

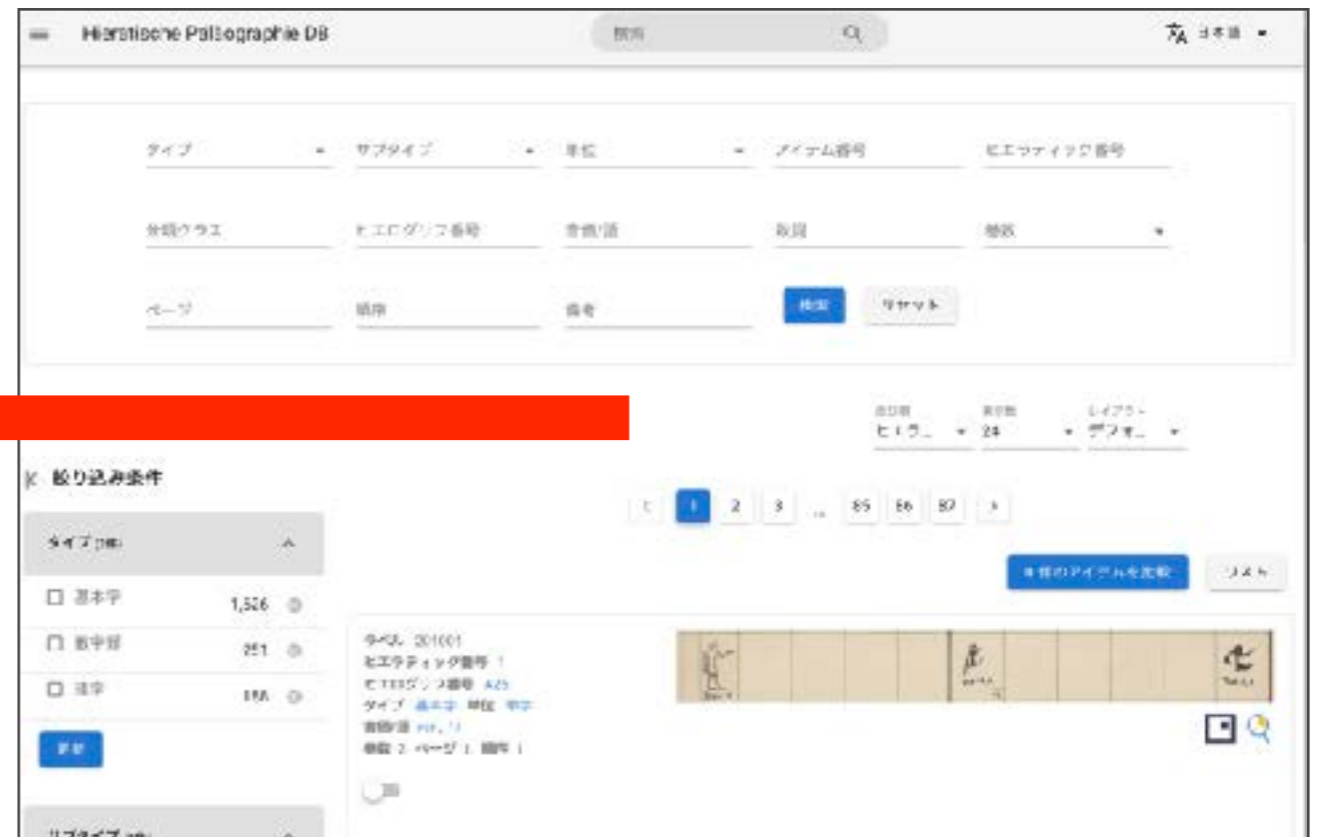
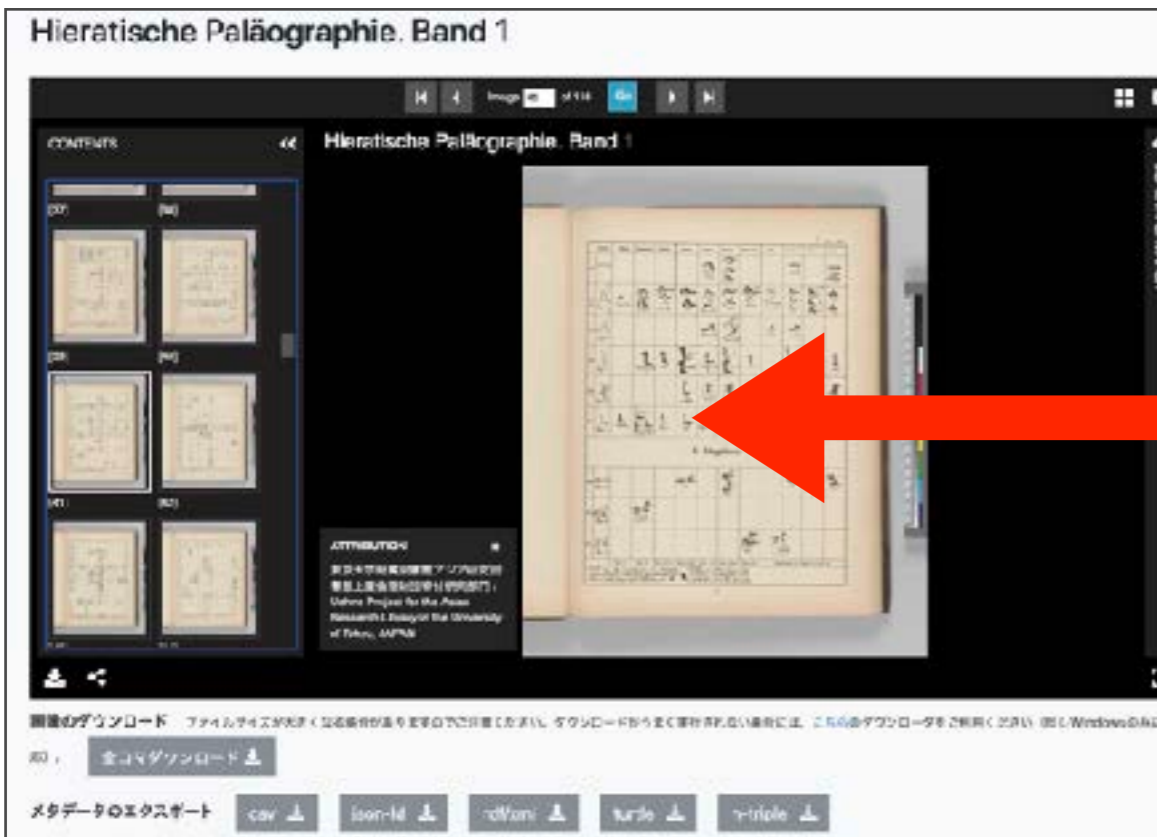


# アジア研究図書館デジタルコレクション のIIIF画像の二次利用

## IIIF画像の中身を検索するシステムの開発

### アジア研究図書館デジタルコレクション

### 『ヒエラティック古書体学』データベース



George Möller, *Hieratische Paläographie*,  
1909-36, 4 vols.

<https://moeller.jinsha.tsukuba.ac.jp/dev/ja>

# 学術情報基盤整備と利活用のための規格

永続・共有のためには、なるべく共通の仕様を用いる

原資料画像の公開・共有



言語の記述・公開・共有



CC BY TEI

データURLの永続性

永続的URL

Semantic Webへの対応



Linked Open Data

二次利用の促進



# ❖ U-PARLにおける情報発信の方法

# 情報発信手段

## ①WEB



## ②Twitter



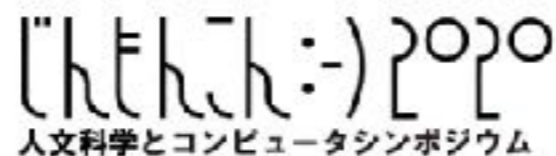
## ③U-PARLセミナー



## ⑤出版物



## ④研究会/学会活動



### オープンデータからオープンナレッジへ—新時代の研究様式が導く学術情報基盤

A会場: Zoomウェビナー

2020年12月12日(土) 13:30~15:30

オープンデータからオープンナレッジへ—新時代の研究様式が導く学術情報基盤

コーディネーター: 幸野明彦(筑波大学 図書館情報メディア系) 趣旨説明

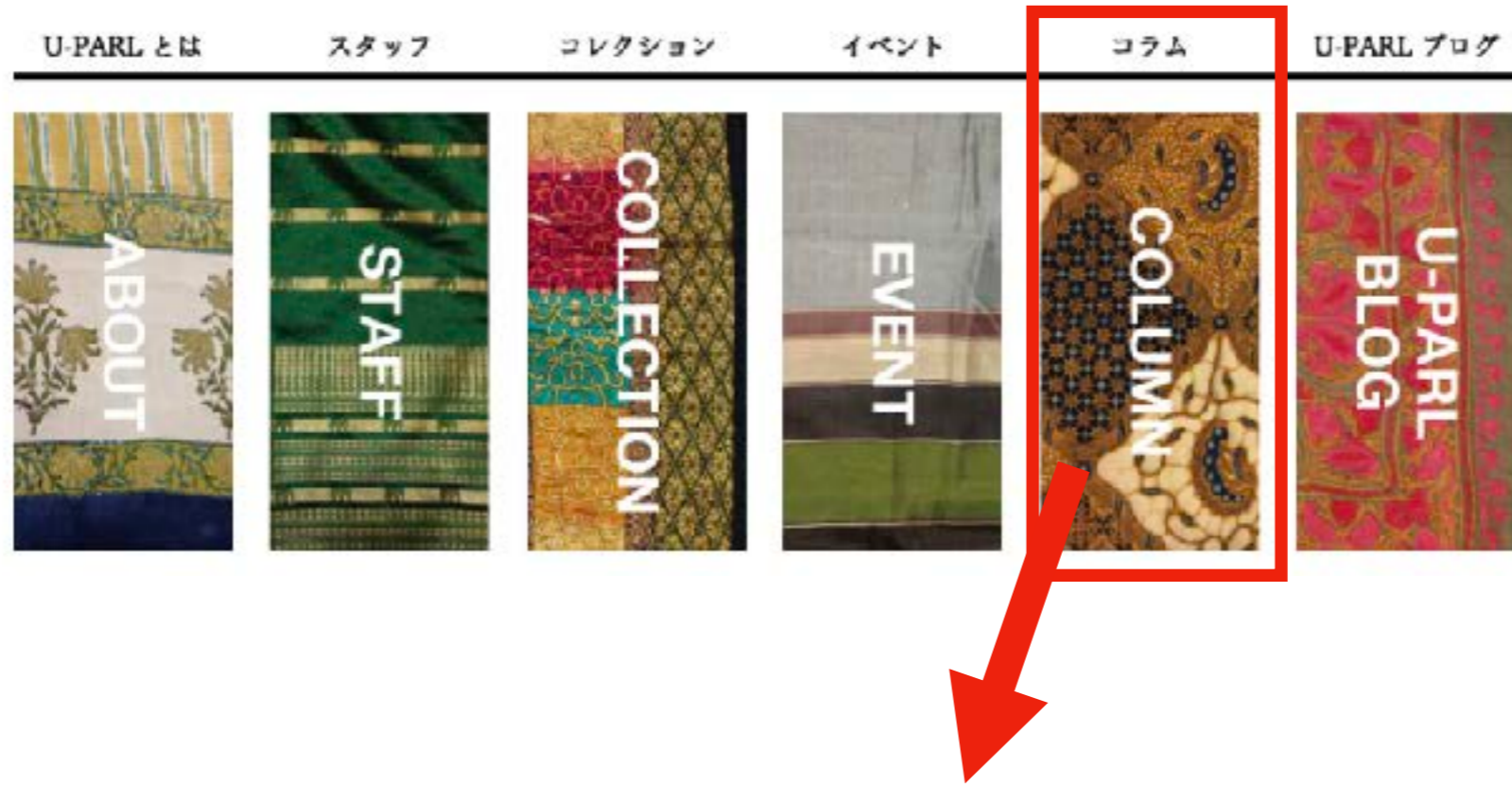
パネリスト

- 三原 俊也(筑波大学 図書館情報メディア系)「マンガ・メディア芸術のデータ基盤とコミュニティの構築に向けて」
- 加藤 誠(筑波大学 図書館情報メディア系)「オープンデータ利活用のためのデータ検索エンジンの構築」
- 永井 正勝(東京大学 附属図書館U-PARL)「東京大学アジア研究図書館デジタルコレクションの構築—図書館における研究部門の試み—」

発表(各15分)

ディスカッション(60分)





WEBでの情報提供

【世界の図書館から】 Vol.1～49



【世界の図書館から】トルコ大国民議会図書館（トルコ）

アジア研究に利用できる図書館情報を世界中から集めるコーナー「世界の図書館から」。第49回は、トルコ大国民議会図書館です。



【アジア研究この一冊！】



【アジア研究この一冊！】渡辺信一郎著『中国古代の財政と國家』

アジア研究者がアジア関係の本をおすすめする「アジア研究この一冊！」第2弾は、中国魏晋南北朝史がご専門の大知聖子さんに語ってもらいました。

▶ 出版

## まとめ

- 『「情報探索」の支援』は研究上のどの段階で、どのような研究者に対して、どのようなものが必要なのかを考える必要がある
- 研究者は情報を使って最終的にアウトプットを行うため、アウトプットを見据えた支援が必要
- 研究者として研究者にとって有用な情報を提供

■ 書誌/資料の情報検索 [学部1-2年]

■ 書誌/資料の収集・整理・公開方法  
[学部3-4年～院生(～教員)]

■ 資料（デジタル化、データベース購入）提供  
[学部生～院生～教員]



WEB掲載だけではなく  
セミナーや学会等で紹介

# U-PARL協働型アジア研究 ▶ 出版物として成果公開を目指す

## MISSION

1

- ◆ 図書館の強みを活かしたアジア研究の推進
- ◆ 学術ネットワークの構築

## 協働型アジア研究拠点の形成

2020-2021年度は、以下の7つの研究プロジェクトを実施しています。

### 「オリエント世界を対象とした研究資源のデジタル化とその利活用に関する研究」

代表：永井正勝

研究資源のデジタル化は、デジタル公開自体が目的であるというよりも、研究資源を扱う研究行為の1つとして位置付けられる。本プロジェクトでは、文献資料、考古資料、建築資料（歴史的建造物）を分析対象とする研究者や情報学の研究者が集い、第一に、HIF、TEI、VRの利活用を核として研究資源のデジタル化に関する方法論ならびにその可能性について研究を行う。第二に、上記の研究成果を踏まえた実践例として、中エジプト語デジタル辞典の作成を目指す。



### 「アジア情報資源の組織化に関する研究：目録作成マニュアルの作成」

代表：徳原靖浩

南・西アジアを中心に、アジアの諸言語で書かれた資料を適切に組織化し、利用に供するために、国内の大学・研究機関の図書館で整理作業を担当する職員や研究者と協働し、言語別ないし地域別の資料の特性に応じた目録作成の方法を検討した上で、言語毎に目録作成マニュアルを作成し、各図書館に配布する。あわせて、図書や雑誌の書誌データと、電子書籍や電子ジャーナル、データベースといったオンライン資料のメタデータを一元的に組織化するための技術的動向に関しても、将来的な地域研究資料の検索のあり方との関連性において検討を行う。



### 「東京大学所蔵水滸伝諸版本に関する研究」

代表：荒木達雄

東京大学には水滸伝の各種版本が豊富に所蔵されている。本プロジェクトではすでにさまざまなジャンルの研究業績、知見を有する研究者が、それぞれの角度から東京大学所蔵水滸伝版本を利用した研究テーマを設定し、研究をすすめている。また、その調査過程においてデジタル画像を利用した研究の可能性、問題点などを検討し、今後のデジタル資料と人文研究との関係のありかたについても提言を行っていかねばと考えている。



### 「『ジャイナ教混濁サンスクリット辞典』構築のための基礎的研究」

代表：河崎豊

ジャイナ教徒が用いる、通常のサンスクリット辞典に記載されないか、もしくは土着辞典にのみ用例が確認されるサンスクリット語（ジャイナ教混濁サンスクリット）の語彙に関するこれまでの研究の書誌学的な調査を行なう。その上で、それら諸研究において収集された語彙データを統合し、「包括的ジャイナ教混濁サンスクリット辞典」の雛型を世界に先駆けて提示する。同時に、新たにジャイナ教のサンスクリット文獻から語彙を収集・検討して上記語彙集に追加する。

### 「ムハンマド・ハキーム・ハーン著『選史』：チャガタイ語訳写本の研究」

代表：河原弥生

コーカンド・ハーン国（18世紀初頭～1876）の歴史書として知られるムハンマド・ハキーム・ハーン著『選史』の現存する4点のチャガタイ語訳写本の系統研究をおこなう。最も翻訳完成年の早いタシケント594写本を底本とし、翻訳の逐語性、写本間の関係、筆写系統、翻訳者およびその依頼者、翻訳の目的や読者層などの観点から他の3写本との異同を調査する。写本調査の結果を踏まえ、当該時期の現地社会の言語文化的背景も考慮に入れつつ、本史料の占める価値と位置を検討する。



### 「海外フィールドワーク収集データのオープン化に関する研究：村落研究を事例に」

代表：遊谷由紀

公的研究資金による研究成果のうち、論文とそのエビデンスとしての研究データは、原則公開とすべきという施策が近年進められている。地域研究の分野において、フィールドワークで収集した研究データには、公開になじまないデータが多く含まれる。また海外で収集したデータについては、調査国のカウンターパート機関や調査地に向けてどのように公開・共有すべきかという視点が不可欠である。以上の状況を鑑み、海外フィールドワーク収集データの学術的・倫理的に望ましい公開・保管のあり方について研究を行う。



### 「壬辰戦争からみる16・17世紀東アジア」

代表：中尾道子

16・17世紀東アジアの社会・経済・文化の全体に広く重大な影響を及ぼした壬辰戦争について、一國史の枠を超えて幅広く共有できるテーマを設定することで、新しい視点から再検討を行う。まず、日本に現存する壬辰戦争の関連資料を網羅的に調査・研究し、これらの成果をもとにした新たな切り口（朝鮮王子と日本軍の動向など）から壬辰戦争の展開を分析する。その上で、日中韓をはじめ広い地域の関連研究者と協働し、16・17世紀の東アジアにおける壬辰戦争の新たな位置付けを提示する。



# U-PARL (附属図書館設置の研究部門) の取り組み

1



アジア研究図書館構築支援  
(紙媒体)

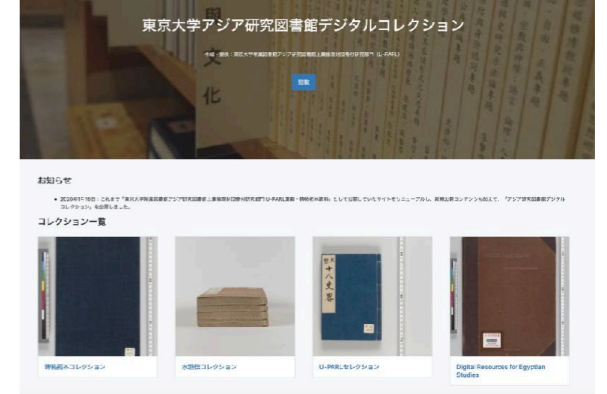
2



アジア研究  
文献探索セミナー  
「日本語と英語で収集する  
全アジア情報」編

文献探索系イベント

4



デジタルコレクション構築  
(IIF画像公開)

3



データベース購入

5



協働型アジア研究

資料収集

利用法紹介

研究成果発信